

平成23年行政事業レビューシート (環境省)

<b>事業名</b>	環境試料タイムカプセル化事業		<b>担当部局庁</b>	総合環境政策局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成14年度～平成22年度		<b>担当課室</b>	総務課環境研究技術室		環境研究技術室長 長坂 雄一		
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	9-3 環境問題に関する調査・研究・技術開発				
<b>根拠法令 (具体的な 条項も記載)</b>	-		<b>関係する計 画、通知等</b>	科学技術基本計画、中央環境審議会答申「環境研究・環境 技術開発の推進戦略について」(平成18年3月)				
<b>事業の目的 (目指す姿を 簡潔に。3行程 度以内)</b>	現在の技術では計れない化学物質等が計れるようになった場合や、将来環境問題が顕在化し、過去に遡って検証が求められるようになった場合、保存していた当時の環境試料を解析することにより、原因の特定や問題解決に大きく貢献する。 また、絶滅のおそれのある生物種が消滅してしまう前にこれらの生物の細胞・遺伝子を保存し、それらを解析することによって、絶滅の恐れのある生物種の特徴把握等を行う。							
<b>事業概要 (5行程度以 内。別添可)</b>	環境汚染物質の長期的トレンドを調べることを目的として、環境試料を採取・保存する。 また、絶滅のおそれのある野生生物等の保護増殖や生物学的研究の基盤として、絶滅危惧生物の細胞・遺伝子の保存を行う。							
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・ 執行額 (単位:百万円)</b>	予 算 の 状 況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	0	0	0	0		
		繰越し等	0	0	0	0		
		計	80	84	79	0		
	執行額	80	84	79				
	執行率(%)	100	100	100				
<b>成果目標及び 成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	本事業は、将来において環境問題が顕在化した際に活用されること等を見込んで環境試料を保存するものであり、成果指標を数値で表すことは困難である。		成果実績					
			達成度	%				
<b>活動指標及び 活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	保存検体数 (環境試料保存事業)		活動実績 (当初見込み)	本	522	431	345	— ( ) ( )
	保存検体数 (絶滅危惧生物系統保存事業)		活動実績 (当初見込み)	本	4,939	5,127	6,729	— ( ) ( )
<b>単位当たり コスト</b>	約11千円/本		算出根拠	単位当たりコスト=事業費/保存検体数				
<b>平成 23 ・ 24 年度 予算 内訳</b>	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	-							
	計							

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・用途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>土壌、大気粉じん、ヒト試料等の環境試料の収集・分析と絶滅危惧生物の生殖細胞の採取・分析を適切に行った。本事業は一定の成果を上げたため、平成22年度限りで事業を終了した。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
廃止	<p>当初の計画どおりの成果を上げることが出来たため、事業終了。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>平成22年度限りで廃止とする。</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入

環境省  
(79百万円)

【公募・請負】

A. (独)国立環境研究所  
(79百万円)  
環境試料及び絶滅危惧生物の  
冷凍保存及び研究・分析等

資金の流れ  
(資金の受け  
取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位: 百万円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロッ  
 クごとに最大の  
 金額が支出され  
 ている者につい  
 て記載する。費  
 目と使途の双方  
 で実情が分かる  
 ように記載)

A.(独)国立環境研究所			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	環境試料及び絶滅危惧生物の冷凍保存及び研究・分析等	79			
計		79	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(独)国立環境研究所	環境試料及び絶滅危惧生物の冷凍保存及び研究・分析等	79	公募	—
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					